

# 前年度協議事項の取組み状況について

平成 30 年 11 月 6 日  
北九州市教育委員会

# I 新学習指導要領への対応について

## 1 平成29年度の主な実績と平成30年度の方針

### (1) 英語教育の早期化

平成32年度から新学習指導要領が全面実施となり、中学年では「聞く」「話す」を中心とした外国語活動（年間35単位時間）が新設、高学年では「聞く」「話す」に、「読む」「書く」の領域を加え外国語科（年間70単位時間）として実施されます。

北九州市では、平成30年度より「外国語活動」と「外国語科」の新しい学習内容を段階的に実施しました（先行実施）。

#### 【29年度実績】

○外国語教育担当教員の養成

- ・・・英語教育中核教員養成研修実施（H27年度～）  
市内全小学校に1名以上の中核教員を配置
- ・・・全小学校教員対象の外国語活動指導力向上研修の実施  
（平成29年度から3年間実施）

平成29年度 622名参加（8月9日、10日、22日実施）

○英語教育リーディングスクールでの取り組み

- ・・・実践報告会の実施（光貞小）平成29年11月17日開催 180名参加
- ・・・日本人外国語指導助手の効果検証（平成29年度はリーディング校に1名配置）

○先行実施に伴う周知徹底

- ・・・先行実施期間の年間カリキュラム作成
- ・・・先行実施期間に関する教育課程講習会の実施（平成29年1月・2月実施）

#### 【30年度方針】

○小学校外国語教育（中学年35単位時間 高学年70単位時間）の先行実施

○日本人外国語指導助手を15人に拡充（小学校121校に配置）

○専科教員の配置（6名）

- ・・・中学校外国語科教員を小学校外国語担当教員として配置



◆ We Can! ①

◆ Let's Try! ①



小学校外国語 授業の様子

## (2) 教育の情報化・プログラミング教育

本市教育の情報化推進のため、29年度門司中学校をICTリーディングスクールに追加し、中学校2校、小学校1校においてタブレットPCを活用した授業実践研究を行い、その成果を各学校の実践報告会にて公開し広く普及に努めました。

### 【29年度実績】

○ICTリーディングスクール実践報告会（指定校3校）

門司中学校…11月14日（火） 数学、社会

門司海青小学校…11月7日（火）国語、総合的な学習の時間（プログラミング教育）

高見中学校…11月8日（水） 外国語、美術

※門司海青小学校の実践報告会にて平成32年度から小学校において必修化されるプログラミング教育について先行研究を発表

○平成29年度ICTの教育活用を推進する実践研究「実践事例集作成

小学校…12事例

中学校…19事例

※北九州市イントラナビに掲載

### 【30年度取組み】

○北九州市小学校プログラミング教育推進事業

平成32年度のプログラミング教育必修化に向けて、小学校3校を指定しプログラミングを学習するための、教科、教材、教具の開発及び授業実践研究を行う。また、「北九州市プログラミング教育スタートパック」を作成し、本市におけるプログラミング的思考を育成するためのモデルプランを作成する。

## (3) 道徳の教科化

平成30年度より小学校では道徳が「特別の教科 道徳」（道徳科）として教科化されました。中学校では、平成31年度から教科化となります。

道徳科の教材をもとに自分の心を見つめたり、友達と話し合ったりする中でよりよい生き方について自分の考えを深めていきます。

教科化となることで、評価を行うこととなります。数値による評価ではなく、児童生徒の成長の様子を認め、励ます記述式の評価をしていきます。

### 【29年度実績】

○小学校道徳科スタンダードカリキュラム作成、配布

○道徳科教育課程講習会の開催（小・中・特別支援学校対象）

・・・授業のあり方、評価の行い方等について

### 【30年度取組み】

○道徳科の評価のあり方研修（全小学校）

○中学校道徳科スタンダードカリキュラムの作成、配布



小学校 道徳科教科書  
※道徳ノートと合わせて使っていきます。

#### (4) カリキュラム・マネジメント、アクティブ・ラーニングの取組み

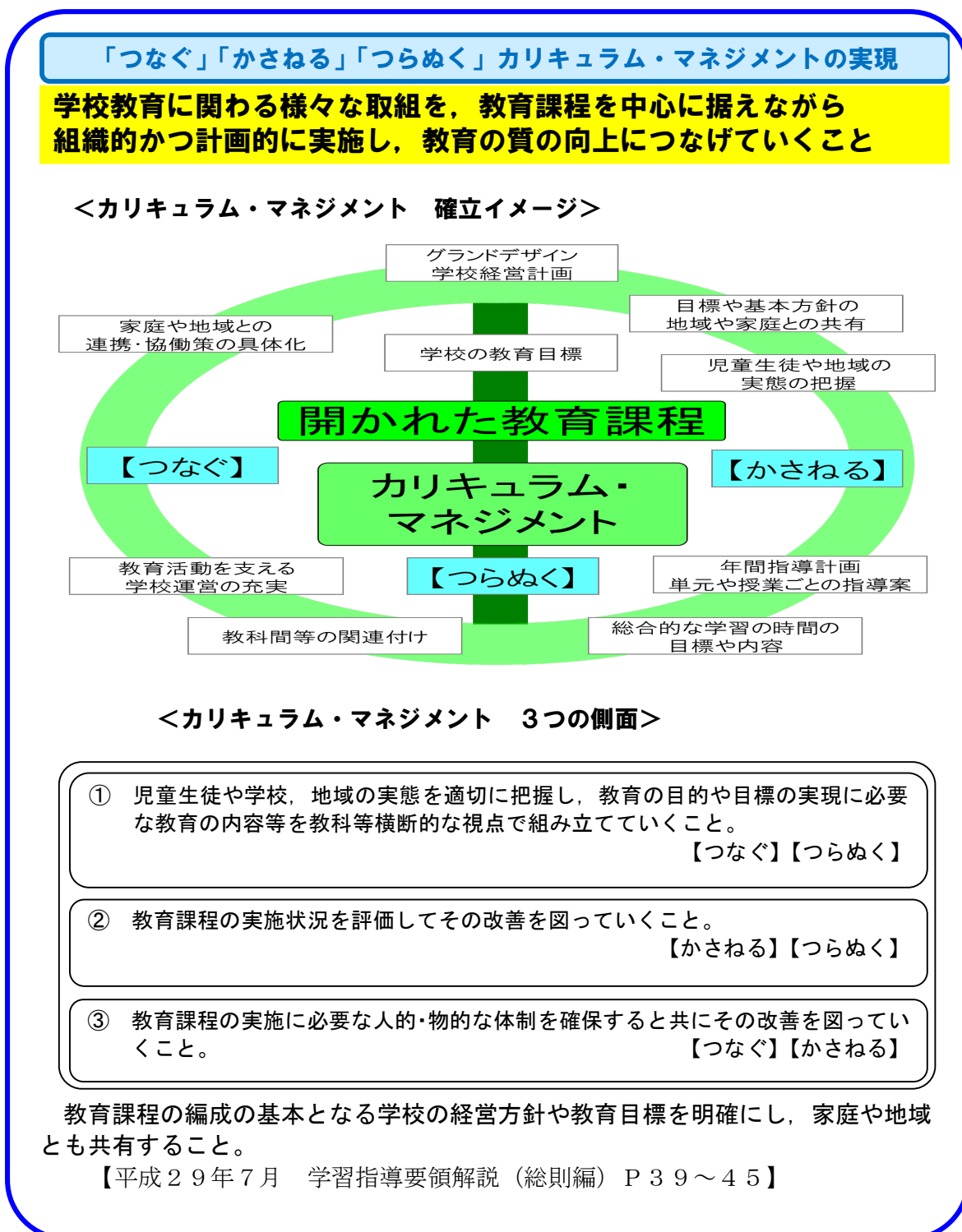
教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るために、カリキュラム・マネジメントを確立することが求められています。

【29年度実績】

○教育委員会作成「指導の重点」にカリキュラム・マネジメントの全体像の提示。

・・・各学校の実情に応じた取組みを推進。

【カリキュラム・マネジメントの全体像】



- 道徳科のカリキュラム・マネジメント案を策定。
  - ・・・小学校における道徳の教科化に対応。
  - ・・・心の育ちに資する道徳科を中核とした教科横断的な指導の充実。

- アクティブ・ラーニング推進事業を実施
  - ・・・授業や研究成果の公開、各学校への推進。

＜アクティブ・ラーニング推進校＞  
(小学校8校、中学校4校、特別支援学校1校)

#### 【30年度取組み】

- 教科横断的な視点をもった年間指導計画の作成
  - ・・・道徳科を核とした教科等をつなぐ年間指導計画の作成



## 2 今後の方向性について

### (1) 英語教育の早期化

小学校教員の指導力向上に加え、専科指導の充実、ALTや日本人外国語指導助手の効果的な活用について、今後も推進していきます。また、文部科学省の通達を受け、高学年の評価の在り方を周知し、評価方法について検討していきます。

### (2) 教育の情報化・プログラミング教育

平成30年度、高見小学校をICTリーディングスクール指定校に加えて、わかる授業を実践するために、タブレットPCや電子黒板等のICT機器とデジタル教科書等デジタルコンテンツを活用した授業研究を推進していきます。

また、次期学習指導要領にて必修化された「プログラミング教育」について、新たに「北九州市小学校プログラミング教育推進事業」を実施し、指定校3校にて実践研究を行い、その成果を本市モデルプランとして作成し、普及していきます。

### (3) 道徳の教科化

多様で効果的な指導方法の工夫を行い「考え、議論する道徳」へと授業の質的転換を図り一人一人のよさを伸ばし、成長を促す評価の充実を図っていきます。中学校においては、効果的な指導と評価の在り方について研修会を行い円滑な教科化ができるように努めるとともに、学校・家庭・地域との連携を図り、心の教育の充実を図っていきます。

### (4) カリキュラム・マネジメント、アクティブ・ラーニングの取組み

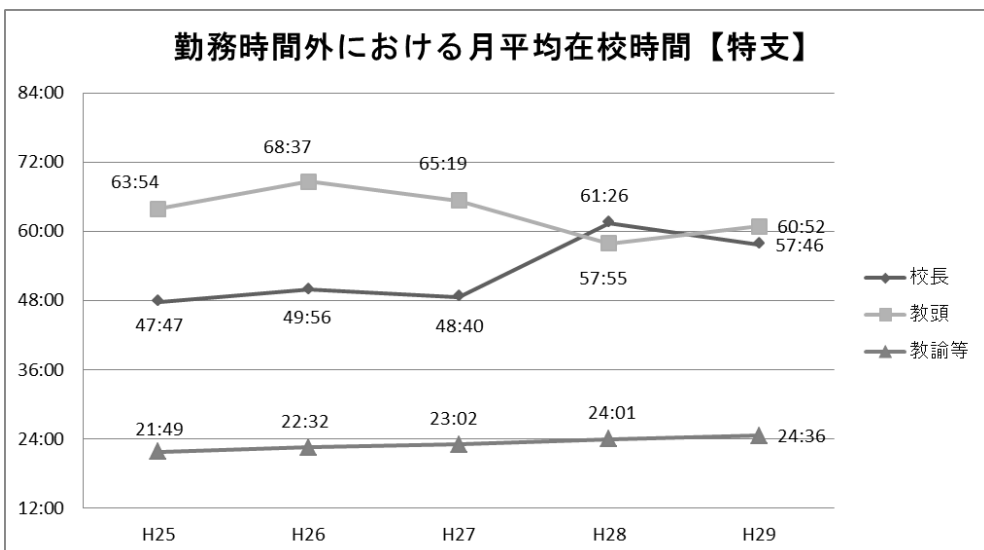
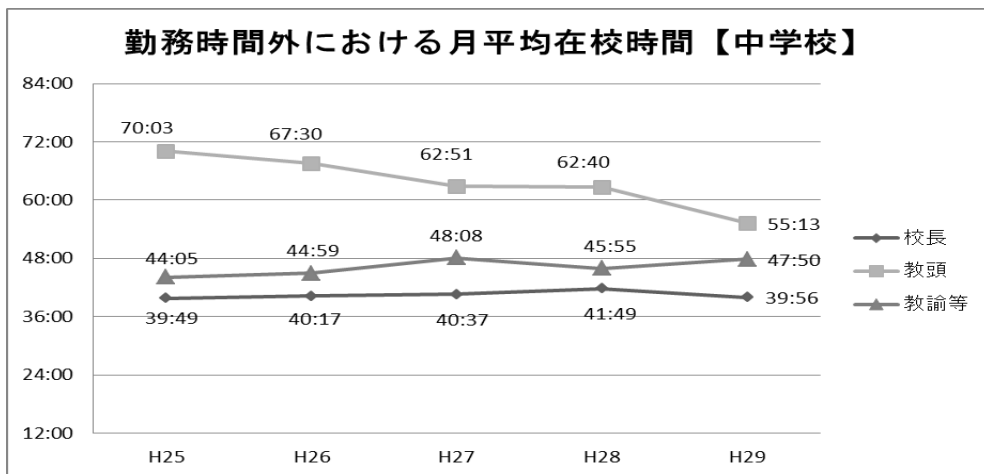
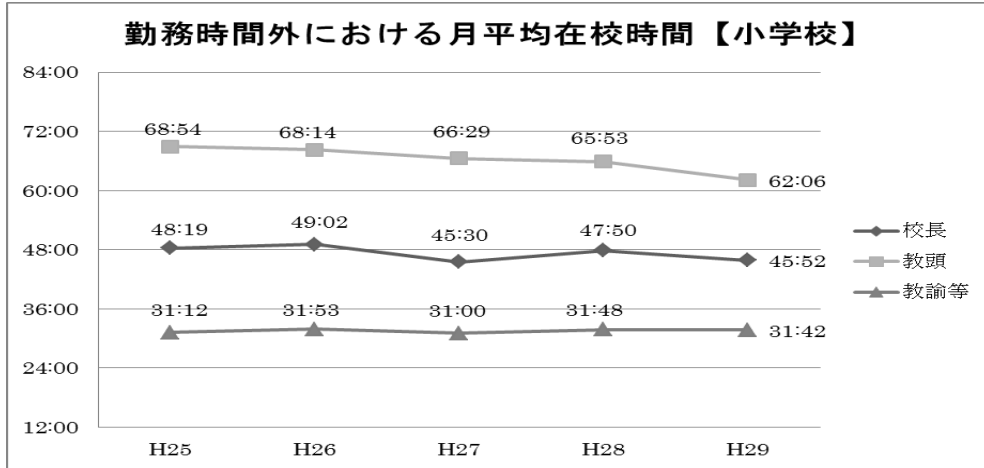
今後も研究推進校の取組みを広報するとともに、各学校がそれぞれの学校の強みや特色を生かした「社会に開かれた教育課程」の実現をめざし、カリキュラム・マネジメント及びアクティブ・ラーニングの取組みを通して、新学習指導要領の具現化を図り、子どもたち一人一人に生きる力を育む教育を推進していきます。

## Ⅱ 本市の教員をとりまく現状・課題について

### 1 子どもと向き合う時間の確保（業務改善）の取組み

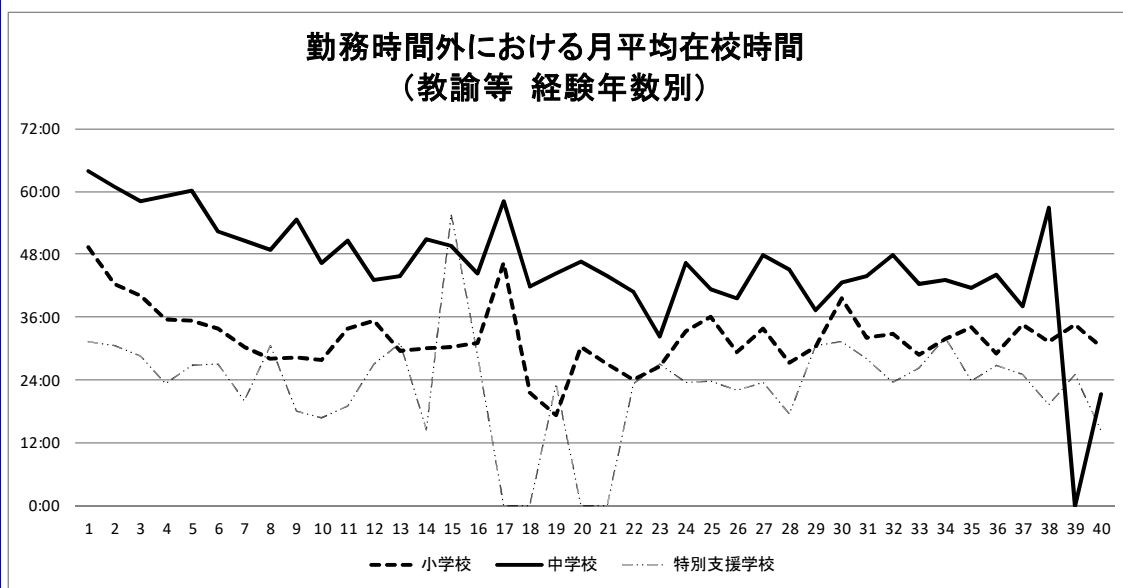
#### （1）平成29年度の主な実績

■勤務時間外における在校時間の分析（過去5年間の推移）



■勤務時間外における在校時間の分析（教諭等：経験年数別）

採用後5年までの教諭の勤務時間外における在校時間が長い傾向にある。



■教職員意識調査結果（平成30年9月実施）

全ての質問項目において、割合が改善している。

質問項目	H28年度調査	H30年度調査	差引
業務改善が進んでいると感じているか	19.8%	29.1%	9.3%増加
現在の仕事が多忙だと感じているか	95.0%	92.2%	2.8%減少
日々の仕事にやりがいを感じているか	91.5%	93.2%	1.7%増加
子どもと向き合う時間を確保できていると感じているか	44.8%	48.8%	4.0%増加

**(2) 平成30年度の主な取組み**

- ア スクールサポートスタッフの配置（小学校40校に配置）
  - ・配布物の仕分け・配布、掲示物の張替え、文書管理の補助などを教諭の代わりに担当
- イ 夏季休業期間中における学校閉庁日の充実
  - ・5日間（8月13日から17日）に充実（昨年度は3日間）
- ウ 部活動指導員の拡充
  - ・19名に拡充（昨年度15名）
- エ 専科指導の推進
  - ・小学校128校で専科指導教員や再任用教員、教務主任等が、理科や外国語、体育を中心に実施

**(3) 今後の方向性について**

- ・PDCAサイクルに基づく業務改善の一層の推進
- ・業務改善の効果測定⇒在校時間の分析や教職員意識調査の継続実施
- ・教職員の意識改革 ⇒管理職に対する研修の継続実施、充実
- ・好事例の普及 ⇒「学校における業務改善ハンドブック<第2版>」の策定



## 2 大量退職・大量採用時代における教員の資質向上

### (1) 平成29年度の主な実績と平成30年度の主な取組み

#### ア 人材確保

(ア) 教員採用試験の大幅な見直し

- ・前年度一次試験合格者に対する一次試験免除制度、「英語有資格者の特例」の導入
- ・現職正規教員を対象とした採用試験の見直し（東京会場で試験実施）など

(イ) 教員採用に関する広報PRの強化

- ・教員採用情報専用サイトの開設、新聞・雑誌等での広告強化
- ・大学を訪問しての採用説明会の拡充 など

#### 成果

- ・福岡県、福岡市とも大幅に教員採用試験の志願者数を減らす中、前年度を上回る志願者数を確保（※過去20年間で最多）

【平成29年度実施試験：813名⇒平成30年度実施試験：910名】

（※今年度から別日程で実施とした現職正規教員枠の志願者を含む）

#### イ 人材育成（資質向上）

(ア) 教員の資質の向上に関する指標に基づく教員研修の体系化・再構築化

- ・平成29年10月に策定した「教員の資質の向上に関する指標」を基に、教育委員会各課で実施している研修や講習会を見直し、「教育委員会研修等総合案内」を作成

#### 成果

- ・研修の効果と効率をふまえながら研修を精選し、研修数を減らしている。

⇒効果的・効率的に教員の資質の向上を図ることが可能となった。

【教育センター研修数の推移】

年度	全講座・研修数
平成26年度	91講座・293研修
平成27年度	86講座・247研修
平成28年度	77講座・195研修
平成29年度	71講座・190研修
平成30年度	73講座・187研修

(イ) kitaQ せんせいチャンネルの充実

- ・インターネット環境が整っていれば、IDパスワードを用いることで、「いつでも、どこでも、何度でも」アクセスできる教員用WEBサイト「kitaQ せんせいチャンネル」を充実

#### 成果

- ・授業の準備や職場内研修に有益な情報等の内容を増やしたことで、個々のニーズにあった授業準備や効果的な校内研修を可能にした。
- ・多くのアクセス数があり、授業を行う担任、校内研修を推進する管理職の有効なツールとして活用されており、学校現場から好評を得ている。
- ・WEB上で講話などを放映する「WEB研修」を増やすことで、従来行っていた校外研修の時間を減らすことにも貢献している。



【WEB研修の研修数の推移】

種類 \ 年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
WEB事前研修	4	18	16
WEB全研修	0	2	17
WEB研修総計	4	20	33

※全187研修中33研修（約18％）はWEB研修を導入し、約7,000時間の出張時間が削減され、子どもと向き合う時間の確保につながっている

※年間約210万円の出張費が削減

（ウ）北九州教師養成みらい塾

- ・優秀な人材確保並びに養成段階（「教員の資質の向上に関する指標」におけるステージ0期）における研修の構築の視点から、本市での採用を目指す大学生や講師を対象にした日曜講座を実施
- ・「kitaQせんせいチャンネル」や「学力・体力向上推進教員」、「子どもつながりプログラム」などの本市の手厚いフォローアップ体制により、施策の紹介や実際に学校で起きうる事案に適切に対応するためのシミュレーションを行う演習等、大学の講義では学ぶことのない講座内容を実施

**成果**

- ・昨年度より登録者数が増加した。

【北九州教師養成みらい塾における登録者数】

年度	学生	講師	その他	計
平成29年度	103	60	1	164
平成30年度	161	43	4	208

**（2）今後の方向性について**

**ア 人材確保**

- ・教員養成課程のある県外大学等への積極的な働きかけ、採用説明会等における本市の住みやすさや安全面のPR等、教員採用試験志願者を一人でも多く確保するための取組みを推進し、優れた人材の確保を図る。

**イ 人材育成**

- ・入職前の段階である教員養成、採用、入職後の育成の一体的な改善を図るために、教員養成を行う大学との連携を深め、指標に基づいた研修の充実を一層進める。
- ・研修の充実を図るツールや組織的な取組等を工夫し、全ての学校で意図的、計画的、継続的な「育てる」人材育成を推進する。
- ・大量採用に伴う若手教員の資質向上については、若手を育てるOJTの推進役となるミドルリーダー育成の研修を充実させていく。また、学校経営への参画意識をもったリーダー育成の観点を重視し育成を図る。

### Ⅲ 子どもたちの学力・体力向上について

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査 概況報告 学力・体力向上推進室

平成30年4月に市立の全小・中学校において全国学力・学習状況調査を実施した。調査の概況は以下のとおりである。

#### 1 実施学年・調査内容

- ◇ 実施学年 市立の全小学校・関係特別支援学校 第6学年(133校)  
市立の全中学校・関係特別支援学校 第3学年(64校)
- ◇ 調査内容 ① 教科に関する調査 小学校…国語・算数・理科 中学校…国語・数学・理科  
② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

2 調査集計者数 小学校児童数 7,703人 中学校生徒数 7,034人

3 調査日 平成30年4月17日(火)

### 教科に関する調査(国語, 算数・数学, 理科)の結果概要

小学校6年生	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
H30 年度本市平均	8.5 / 12 問	71%	4.3 / 8 問	54%	8.6 / 14 問	61%	5.0 / 10 問	50%	9.6 / 16 問	60%
H30 年度全国平均	8.5 / 12 問	71%	4.4 / 8 問	55%	8.9 / 14 問	64%	5.1 / 10 問	52%	9.6 / 16 問	60%
全国平均に対する割合	101%		99%		96%		96%		99%	

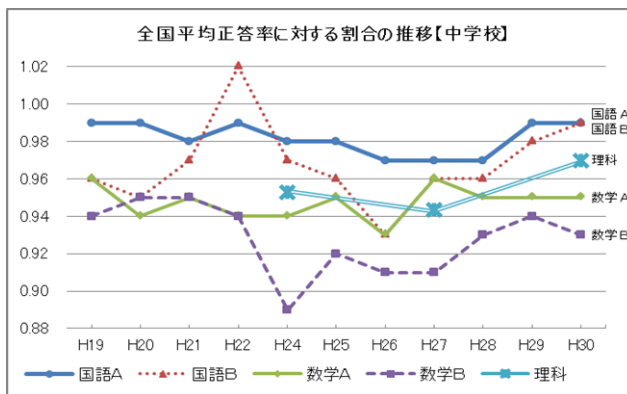
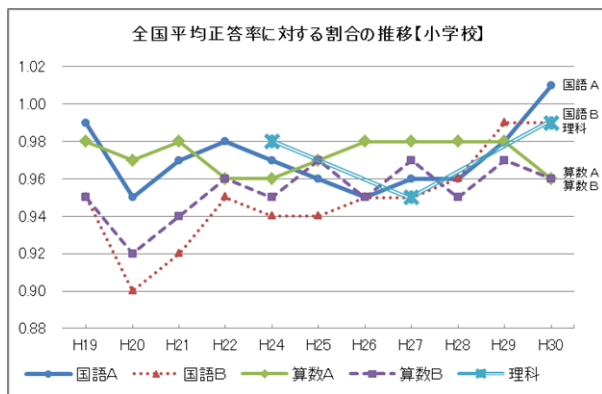
  

中学校3年生	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
H30 年度本市平均	24.0 / 32 問	75%	5.4 / 9 問	60%	22.6 / 36 問	63%	6.1 / 14 問	44%	17.3 / 27 問	64%
H30 年度全国平均	24.3 / 32 問	76%	5.5 / 9 問	61%	23.8 / 36 問	66%	6.6 / 14 問	47%	17.9 / 27 問	66%
全国平均に対する割合	99%		99%		95%		93%		97%	

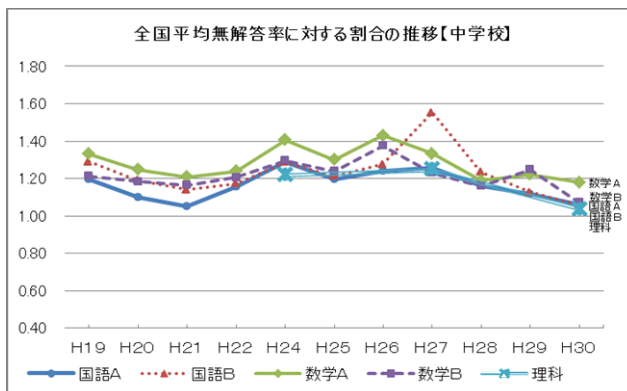
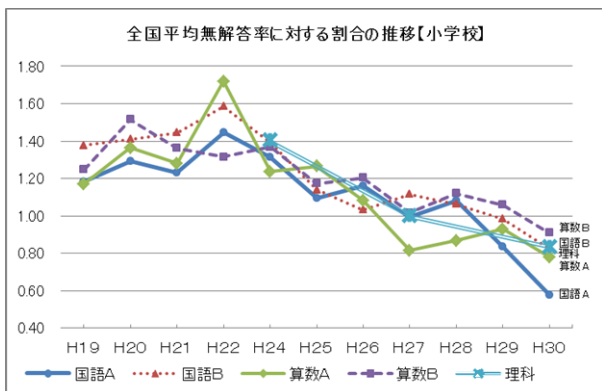
※ Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題である。

※ 結果公表にあたっては、文部科学省の方針に沿って細かい桁における微小な差異は学力面で実質的な違いを示すものではないという考えから、平成28年度より整数値で公表するようにした。

#### ■ 全国平均正答率に対する割合(平成19年度～平成30年度)



#### ■ 全国平均無解答率に対する割合(平成19年度～平成30年度)



教科調査の成果と課題 ～本年度の結果に見られる顕著な状況～

【成果1】 小学校国語Aで、全国平均を上回った。

小学校 28年度 96% → 29年度 98% → 30年度 **101%**

※ 全国平均正答率を100%として比較

【成果2】 小学校国語B, 中学校国語A・B, 理科は全国平均に近づいている。

小学校 国語B 28年度 96% → 29年度 99% → 30年度 **99%**  
理科 27年度 95% → 30年度 **99%**

中学校 国語A 28年度 97% → 29年度 99% → 30年度 **99%**  
国語B 28年度 96% → 29年度 98% → 30年度 **99%**  
理科 27年度 94% → 30年度 **97%**

【成果3】 全国平均を上回る学校数が増加傾向にある。

小学校 28年度 38校 → 29年度 46校 → 30年度 **52校**  
中学校 28年度 14校 → 29年度 16校 → 30年度 **21校**

※ 国語, 算数・数学, 理科の平均正答率の合計による比較

【成果4】 全国に比べ、無解答率が減少している。

小学校 国語A 28年度108% → 29年度 83% → 30年度 **58%**  
算数B 28年度112% → 29年度106% → 30年度 **91%**

★ 小学校全実施教科で、全国平均無解答率以下を達成。

中学校 国語B 28年度124% → 29年度113% → 30年度 **106%**  
理科 27年度125% → 30年度 **104%**

※ 全国平均無解答率を100%として比較

《課題》 小学校算数, 中学校数学Bは、一進一退の状況である。

小学校 算数A 28年度 98% → 29年度 98% → 30年度 **96%**  
算数B 28年度 95% → 29年度 97% → 30年度 **96%**  
中学校 数学A 28年度 95% → 29年度 95% → 30年度 **95%**  
数学B 28年度 93% → 29年度 94% → 30年度 **93%**

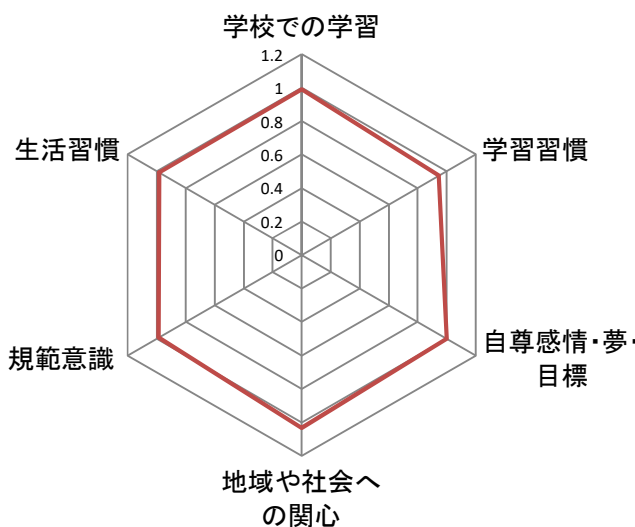
## 学習状況調査結果概要

児童生徒質問紙から、「学びの育ち」と「心の育ち」に関係の深い質問項目を選び、子どもたちの質問に対する回答状況を数値化し、指標としています。（下表の数値は、本市の肯定的な回答の割合）

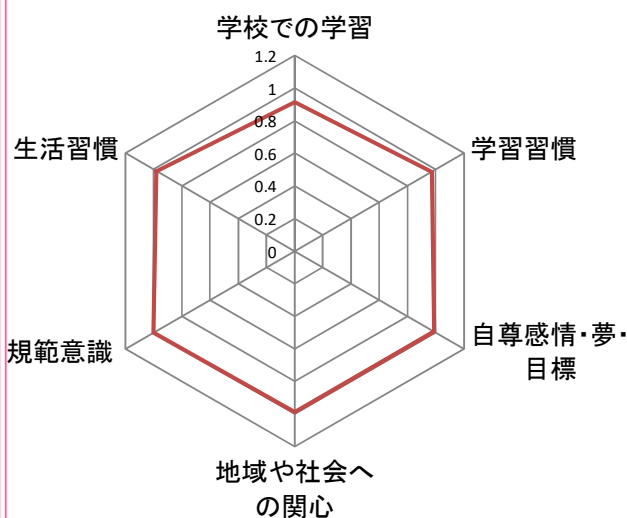
		質問項目		H29	H30
学びの育ち	学校での学習	学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	小	62.3	77.8
			中	61.0	72.9
		授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。	小	71.2	74.6
			中	68.4	68.0
		算数(数学)の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ(根拠)を理解するようにしていますか。	小	79.1	78.1
			中	68.9	66.1
		算数(数学)の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。	小	83.3	84.9
	中		79.7	76.1	
	理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか。	小	—	88.1	
		中	—	71.0	
		理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか。(観察や実験の結果をもとに考察していますか。)	小	—	83.2
		中	—	66.6	
	学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	小	54.2	63.3
			中	45.8	48.4
家で、学校の宿題をしていますか。		小	96.3	97.1	
	中	87.6	91.6		
学校の授業時間以外に、普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。	小	50.8	58.1		
	中	56.8	59.3		
生活習慣	朝食を毎日食べていますか。	小	92.4	91.8	
		中	91.0	89.0	
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	小	77.3	76.6		
	中	75.9	73.5		
意識規範	学校のきまり(規則)を守っていますか。	小	89.8	88.3	
		中	95.1	95.0	
心の育ち	自尊感情	自分には、よいところがあると思いますか。	小	75.9	82.7
			中	69.9	78.4
	夢目標	将来の夢や目標を持っていますか。	小	86.5	86.5
			中	70.6	70.8
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	小	91.1	94.7	
		中	91.5	94.4	
地域や社会への関心	地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか。	小	60.2	66.4	
		中	60.3	59.6	
	今住んでいる地域の行事に参加していますか。	小	48.5	64.4	
		中	27.6	44.1	

■ 本市と全国との比較(全国を1とした場合)

【小学校】



【中学校】



■ 学びの育ちについて

<学校での学習について>

- 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の肯定的な回答が小・中学校ともに前年度を上回っていることなどから、授業改善に向けた取組が進んでいる。
- ◎ 今後は、「めあて」や「振り返り」の質の向上や、考えを広げ、深めることができるような「話し合う活動」の実現に向け、研修会を実施する等、授業の質のさらなる向上に向けた取組を進めていく。

<学習習慣について>

- 「学校の宿題をしていますか」については、小6、中3ともに全国平均と同程度となっている。「学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上勉強している」については全国平均を若干下回っているが、改善傾向にある。
- ◎ 今後、各学校で宿題に関するルール(内容、分量、予定等)を定め、家庭学習について、意図的・計画的に実施し、学習習慣の確立と、学習内容の確実な定着を図ることが求められている。また、児童生徒の習熟度に応じた教材の準備、自学の習慣の定着等の取組を一層進めていく必要がある。

■ 心の育ちについて

<自尊感情・夢・目標について>

- 「自分には、よいところがある」については、H27年度の取組状況と比べると、小6、中3ともに、年々肯定的な回答が増え、全国と同程度になっている。
- ◎ 今後も引き続き、学校・家庭・地域での様々な活動を通して、児童生徒が自己有用感を実感したり、達成感を味わうことができたりする機会を意図的・計画的に設定していく必要がある。

<地域や社会への関心について>

- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」については、肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも全国平均と同程度となり、全国平均に近づいている。
- ◎ 今後一層地域との連携を図っていく必要がある。地域の祭りや伝統行事、市民センターや公民館の行事等に進んで参加できる環境を整え、地域のよさに気付かせるとともに、シビックプライドを育成したい。

# 平成30年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査【速報値】

## 調査の概要

- 実技に関する調査
- 質問紙調査

【調査の対象とする児童生徒】

小学校第5学年 特別支援学校小学部第5学年

中学校第2学年 特別支援学校中学部第2学年

【調査種目】 小学校8種目 中学校9種目 (20mシャトルランと持久走のどちらかを選択)

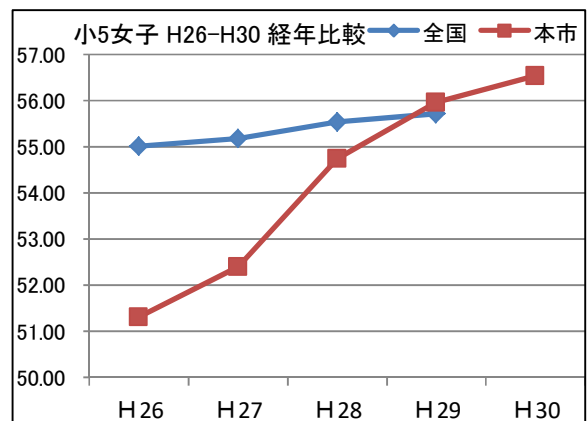
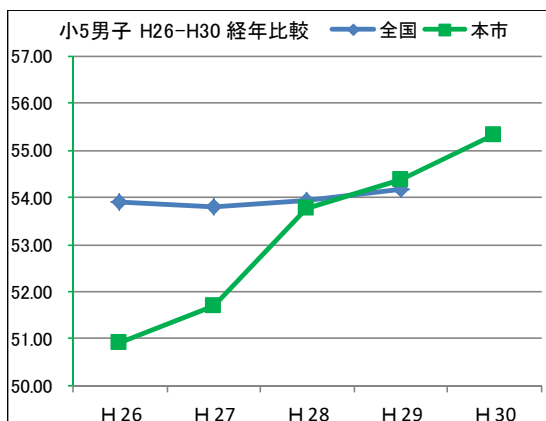
## 本年度結果(小学校)

- ・ 体力合計点において、男女共に、昨年度の本市平均を上回った。
  - ・ 本市経年比較した時、昨年度の数値を上回った種目数(8種目中)  
男子:6種目 女子:5種目
  - ・ 体力合計点において、男女共に、昨年度の全国平均を上回った。
  - ・ 昨年度の全国平均を上回った種目数(8種目中)  
男子:7種目 女子:7種目
- ※本速報値は、市独自の集計であり、国の集計方法とは異なるため、数値が変わることもある。

※   は、全国平均値と同等以上の項目。本市比較で前年度より向上したものは↑で示す。

測定項目	小5年 男子				小5年 女子			
	H29 全国	H29 本市	H30 全国	H30 本市	H29 全国	H29 本市	H30 全国	H30 本市
① 握力(kg)	16.51	16.67	↑	16.71	16.12	16.47		16.22
② 上体起こし(回)	19.92	20.32	↑	20.52	18.81	19.16		↑ 19.39
③ 長座体前屈(cm)	33.15	33.09	↑	33.85	37.43	37.19		↑ 37.89
④ 反復横とび(点)	41.95	40.91	↑	42.55	40.06	39.55		↑ 40.60
⑤ 20mシャトルラン(回)	52.24	52.67	↑	55.16	41.62	42.13		↑ 44.43
⑥ 50m走(秒)	9.37	9.38		9.38	9.60	9.62		9.62
⑦ 立ち幅とび(cm)	151.71	152.51	↑	154.68	145.47	145.98		↑ 147.58
⑧ ソフトボール投げ(m)	22.53	24.17		23.80	13.94	14.41		13.96
体力合計点(点)	54.16	54.37	↑	55.32	55.72	55.96		↑ 56.54

## 体力合計点の経年比較(小学校)





# 平成30年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査【速報値】

## 本年度結果(中学校)

- ・ 体力合計点において、男女共に、昨年度の本市平均を上回った。
- ・ 本市経年比較した時、昨年度の数値を上回った種目数(9種目中)  
**男子:5種目 女子:5種目**
- ・ 体力合計点において、男女共に、昨年度の全国平均を上回った。
- ・ 昨年度の全国平均を上回った種目数(9種目中)  
**男子:8種目 女子:8種目**

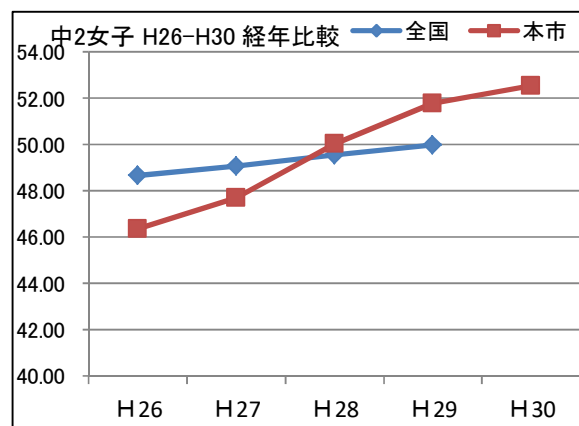
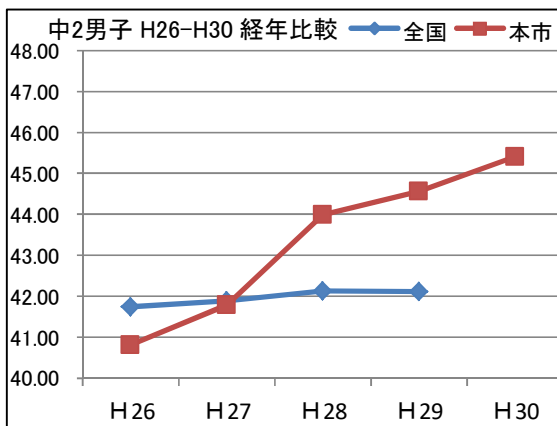
※本速報値は、市独自の集計であり、国の集計方法とは異なるため、数値が変わることもある。

※   は、全国平均値と同等以上の項目。本市比較で前年度より向上したものは↑で示す。

測定項目	中2年 男子				中2年 女子			
	H29 全国	H29 本市	H30 全国	H30 本市	H29 全国	H29 本市	H30 全国	H30 本市
① 握力(kg)	28.89	30.03		30.02	23.82	24.42		24.41
② 上体起こし(回)	27.45	28.52		28.57	23.73	24.60		24.41
③ 長座体前屈(cm)	43.2	45.87		45.74	45.86	49.11		48.66
④ 反復横とび(点)	51.89	52.20		54.24	46.76	46.77		48.56
⑤ 持久走(秒)	391.23	385.94		393.81	287.36	289.36		294.66
⑤ 20mシャトルラン(回)	85.99	86.32		88.50	59.14	58.86		60.52
⑥ 50m走(秒)	7.99	7.88		7.82	8.80	8.76		8.71
⑦ 立ち幅とび(cm)	194.54	200.58		201.38	168.57	174.36		176.28
⑧ ハンドボール投げ(m)	20.56	21.32		21.24	12.96	12.78		12.98
体力合計点(点)	42.11	44.57		45.36	49.97	51.77		52.54

(※ 中学校は、持久走[男子1500m・女子1000m]と20mシャトルランのどちらかを選択。)

## 体力合計点の経年比較(中学校)



## 学力・体力向上に向けた今後の方向性

平成28年3月に策定した「北九州市学力・体力向上アクションプラン」に沿って、この3年間学力・体力向上に向けた様々な取組みを教育委員会・学校が総力を挙げて行った結果、学力・体力とも一定の成果が出ている。この流れをさらに推進するため、「北九州市学力・体力向上アクションプラン」の第2ステージを今年度中に策定し、**教育委員会・学校がベクトルをそろえ、より効果的・重点的に学力・体力向上に取り組んでいく。**